

就職活動体験記

齊藤 加菜（文学部史学科）

・就職活動について考え始めた当初

私は、司書課程で学んでいる皆さんのうちにも同様の考えを持っている方もいると思いますが、3年生の春頃は図書館司書を第一志望に考えており、その次に民間就職先として書店を第二志望としていました。

ご存知のように、図書館司書は募集が少なく、専任職としての採用はさらに少ないというのが、公務員としての図書館司書の就職活動の現状です。そのため、民間就職のことも視野に入れて就職活動に向けて準備を始めました。

公務員試験は自治体によって試験内容が異なりますが、私の志望先の横浜市は政令指定都市のため地方上級という区分の筆記試験が実施されており、科目数が多く、その他に司書としての知識を問われる問題も課されます。そのため、かなり早い段階から勉強しておくことが求められます。3年生の春からその勉強を開始しましたが、大学での勉強と並行し、さらに民間就職も視野に入れて準備することはかなり厳しいです。

周囲からも公務員と民間の両立は出来ないと言われていましたが、実際に難しいと感じました。

私が就職活動をしていた時期は12月から就職活動が本格的に開始であったため、民間企業で内定をいただいた上で公務員試験も受けたい、と考えていましたが、民間就職だけでもかなりの時間を費やすため、1月頃には民間企業にしばって就職活動をすることに切り替えました。

・民間企業での就職活動

私の就職活動における軸は「本の力をより多くの人に伝える仕事に就きたい」ということでした。本を読むことで得られる知識や物語の素晴らしさに触れてもらいたい、お客様の情報要求に対して回答を提示していきたい、と考えた際に、それができる仕事はまず図書館司書があり、次に書店員であると思いました。

公共サービスと販売で利益を得る民間企業で立場は異なりますが、“本に携わる仕事”を条件に企業研究をしました。

民間企業では第一志望を書店、第二志望を取次会社（書店・図書館と出版社の仲介）、第三志望を出版社とし、他に印刷会社や図書館関係のシステムや人材関係の企業も調べ、受験していました。

しかし、出版業界は今、斜陽産業とも言われているのですが、特に出版社は図書館司書以上の狭き門です。採用人数が少なく、それに対し入社希望者が圧倒的に多い上、エントリーシートや筆記試験、面接、いずれも変わった質問や書かせる分量も多く、並大抵の努力では合格しないと言ってよいと思います。出版社を受ける過程で自分の読書体験や学生生活での学びを省みる機会が多く、それが就職活動の軸となった点で出版社を受けてよかったとは思いましたが、時間も体力も消耗するため、出版社受験の重なった1月～2月はかなり精神的に追い詰められた時期でした。

民間就職第一志望の書店はというと、こちらも大手書店しか採用活動を行っていない上に採用人数が少ないという点では図書館や出版社と近いものがあります。また、書店でも書店員として本の販売を行うのではなく、店で働く人員の管理を行う立場の人間を社員として採用する企業が多く、自分の望む形で働けるかを企業研究の中で見極める必要がありました。

私は3年生の夏に大学主催のインターンシップに参加し、最終的に内定をいただいた書店で約1週間の研修を体験したこともあり、社員の働き方の様子やその書店ならではの特徴を見ることができたため、それを実際の就職活動に繋げることができました。

また、自分で多くの書店に足を運び、扱っている商品や社員の様子などを研究した上で、それぞれの書店の良さを見極めることが必要となります。書店は説明会を実施しないところも多く、大手就職サイトにも登録されていないため積極的に情報収集しなければなりません。

結果として、インターンシップに参加した、第一志望の書店に就職が決まりましたが、就職活動を経て重要であると感じたのは、その企業のことをどれだけ知っているか、その上で

なぜここで働きたいか、その理由は何かを熱意をもって伝えられることだと思います。

私の場合、インターンシップに参加したことでその書店のことを知る機会に恵まれたこと、他社比較がしやすかったことが挙げられます。あとは自分の思いをどれだけ熱心に伝えられるか、それに尽きるのではないのでしょうか。

・就職活動と司書課程

就職活動では、私の目指す業界が本に関係のある業界であったことから、司書課程で学んだ情報調査に関する能力や“本”“知識”に対する考え方が強く関係してきました。

しかしそれ以上に、司書課程の講義の中で感じてきた“知”を構築し、調べ、伝えるという図書館や司書の使命、その素晴らしさや学ぶことの喜びが、それを仕事として生きていきたいという目標に繋がったということが、得難いものであると思います。

これから就職活動をする皆さんには、自分が何に心を動かされたか、その経験の根本にあるものをよく考え、それを言葉にして伝えて、自分の望む道へ進んで行っていただきたいと思います。きっとそこには直接的にであれ、間接的にであれ、司書課程で学んだ経験が生かされると思います。